

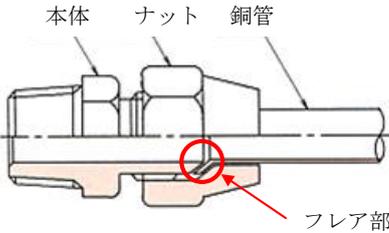
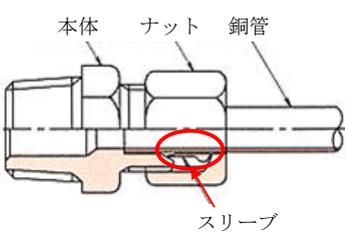
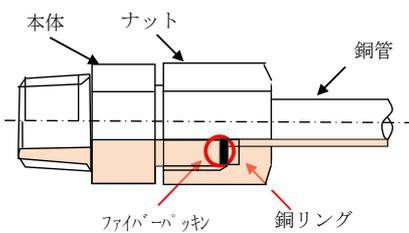
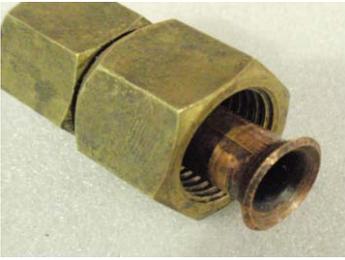
水力発電所 小口径銅管継手の新形状の開発

ポイント
これまでの銅管継手は施工性が悪く、分解点検後の漏油が問題になっていた。
今回、施工性が良く、繰り返しの分解・組立後もシール性能を確保できる新形状の銅管継手を開発した。

特長

- ・専用工具が不要
- ・施工性が良い
- ・Oリングの採用で信頼性を向上
- ・施工後もOリングの交換が容易な構造

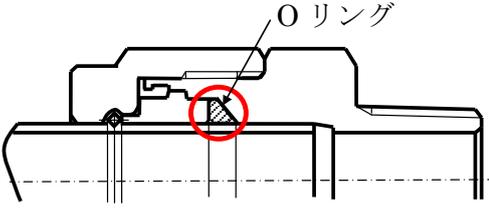
従来の銅管継手

フレア式	食い込み式	ファイバーパッキン式
 <p>本体 ナット 銅管 フレア部分</p>	 <p>本体 ナット 銅管 スリーブ</p>	 <p>本体 ナット 銅管 ファイバーパッキン 銅リング</p>
		
<ul style="list-style-type: none">・金属の塑性変形を利用した金属シール・繰り返し分解組立すると漏油が発生・フレア作成には専用工具が必要		<ul style="list-style-type: none">・バーナー等の工具が必要・銀ロウ付けに高度な技術が必要

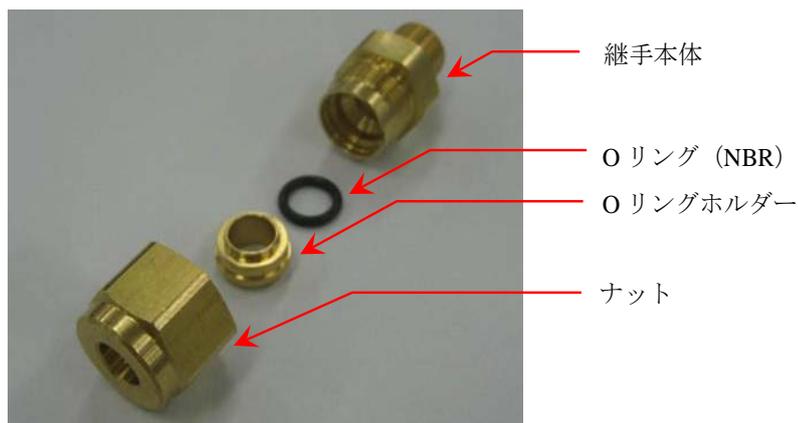
開発した銅管継手

<特徴>

- ・専用工具が不要で、組立も簡単（施工性向上）
- ・Oリングでシールする構造（信頼性向上）
- ・分解時や漏油発生時はOリングを交換するだけで、シール性能を回復（保守性向上）
なお、継手は交換不要。




1. 新形状継手の構成部品



2. 新形状継手の組立手順

- ① 継手本体にOリングを挿入する。(写真：Oリング挿入状態)



- ② Oリングホルダーの向きを確認し、継手本体にセットする。



- ③ ナットを軽く廻し入れ、銅管を奥まで挿入する。
ナットをネジ山が見えなくなるまで締め込み、継手完成。

